

令和4年度第2回総合教育会議 会議録

日 時 令和4年12月16日(金) 午前10時 開会

場 所 東近江市役所 314、315 会議室

出席者

市長	小椋 正清	副市長	南川 喜代和
教育長	藤田 善久	教育長職務代理者	篠原 玲子
教育委員	沖田 行司	教育委員	山本 一博
教育部長	大辻 利幸	教育部理事	沢田 美亮
管理監(学校教育担当)	栗田 一路	学校教育課 参事	北川 守一
学校教育課 学校指導係長	上田 章子	学校教育課 指導主事	安本 剛
教育研究所長	宮居 伝	教育研究所 指導主事	斎藤 陽
教育研究所 研究員	中村 和貴	管理監(秘書担当)	中堀 智之
事務局			
管理監(教育総務担当)	中西 美智代	教育総務課長補佐	池元 貴之

以上18名

開会

教育部長

皆さん、おはようございます。

本日は、お忙しい中、令和4年度第2回総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。

ただいまから、会議を始めさせていただきます。

本日、司会を務めさせていただきます教育部長の大辻です。どうぞよろしく願いいたします。

はじめに小椋市長から、御挨拶をいただきます。

市長よろしく申し上げます。

市長

皆さん、おはようございます。

今年度第2回目の総合教育会議の開催でございます。年末の大変御多忙の中、御出席いただき、心から感謝申し上げます。皆様には、本市の教育行政に渾身のお力をお借りしていることを心からお礼を申し上げたいと思っております。

滋賀県のコロナ感染が増えています。高齢者の施設、特養の施設、クラスターが連続して発生している事態でございます。学校の方でも5人以上感染しないとクラスターと言わないのですが、結構蔓延しておりますので、まだまだ油断できないような状況で冬になると季節性のインフルエンザが流行すると、まずもって感染しないように皆さんで努力をしていかなければならない状況でございます。地域の感染レベルに応じて、市といたしましても様々な施策を行っているのですが学校教育活動ほぼほぼ正常に再開しているものと思います。

ただ、議会で質問が出ましたけれども、黙食をいつまでやるのだとかパーテーションをいつまでやるのだとか、なかなか難しい判断を迫られておりまして、できるだけ子どもに無用のプレッシャーがかからないように現場では配慮していただきたいと思っておりますので、よろし

市長

くお願いします。

今年度の全国学力学習状況調査結果から、東近江市の小中学生の学力向上に向けた取組を協議事項としています。学校教育課を中心にちょっとでも底上げを図るという努力をしています。これは間違いなく。一番プレッシャーを感じているのは藤田教育長だと思っています。ここで真剣に論議して、一定我々の共通の理解と一歩でも踏み出せる方策でもあればと思っています。エース級の先生がいてくれますので教育委員会から現場へ戻ってくれたときにより力を発揮していただけたと思います。有効な時間になりますことを心から祈念申し上げて本日はよろしく願いいたします。

教育部長

ありがとうございました。続きまして、藤田教育長から御挨拶をいただきたいと思います。

教育長

おはようございます。お忙しい中、総合教育会議に御出席いただきありがとうございます。

今、市長の方からお話がありましたように、コロナ禍については、学校現場の状況からも増えてきたなど実感しております。昨日は6校8クラスで学級閉鎖をしておりましたが、今日は少し減りまして、3校3クラスという状況ではありますが、週替わりでコンスタントにこういう形を繰り返しているということです。今、お話にありましたようにインフルエンザの動向も気になりますし、年を明けますと入試シーズンを迎えることから、そういったことの状況をつかみながら、適切に判断するよう校長にも支持をさせていただいたところです。

さて、世界はワールドカップで大変盛り上がりしており、決勝は連覇を狙うフランスがメッシ率いるアルゼンチンとの戦いということで、メッシは、ワールドカップ決勝が自身のキャリア最終戦と話しており、また、得点王もフランスの若きエース、エムバペとの争いということもあって大変な盛り上がりです。

日本チームも頑張ってくれまして大変盛り上げてくれました。ドイツに勝ち、スペインにも勝って決勝トーナメント進出を勝ち取ってくれた時、私が一番感じたのは、若い世代が着実に育っているという事でした。今回のメンバーの多くはワールドカップ未経験者だったわけで、私のようにワールドカップしか見ないいい加減なサッカーファンですから、あまり知っている選手がいなかったのが大丈夫かと思ったのですが、シュート、点の取り方、逆転といったことから、今までに感じた事の無い強さを感じる事が出来ました。注目点は、若い選手が自身の判断で行動を出来るという事です。私たちが、今子どもたちに求めている力と同じではないかと感じております。

教職員の状況に置き換えますと、学校現場でも、中堅の世代が少ないという部分があり、若い人たちに少し難しい仕事にチャレンジしてもらいたいと私は考えておりましたが、そのチャレンジが新たな成長につながるのではないかと感じているところです。私たちには、若い人たちに少し難しい仕事を任せる勇気があるのではないかも分からないと感じているところです。

また、子どもたちには、AIの時代を生き抜くためにも、タブレットをはじめとした、ICTで学ぶことに取り組んでもらっていますが、子どもたちは生まれてからこのような世界で生きております。先ほど山本委員がプロジェクターを見ながら、こんな近いところにプロジェクターがあっても映るのかとおっしゃいましたが、このような近い距離でも補正がかかって綺麗に映るということでございます。ICT機器も進化を続けております。こういった時代が当たり前なのだということで、私たちも思考を少し変える必要があるのではないかと

教育長

考えております。当たり前の機器を圧倒的に便利な、圧倒的に合理的だという考え方でこのようなもので学ぶということが進んでいることだと思います。そのような中で、ベストミックスでの選択は必要になっていくのですが、ちょっと私たちの考えも変える必要があるのではないかと最近感じているところです。

ということで、今回の総合教育会議のテーマは、学力向上です。御存じのように、いじめ問題や不登校、特別な支援を必要とする児童生徒の増加などが大きな課題としてあげられるようになってまいりますと、学力はもうちょっといいかな、とにかく子どもたちには、元気に学校に通っていただけるのが本当にありがたいという気分にならないではないのですが、やはり学校の本分は学ぶ力の向上だと私は思っております。

今日は皆さんと、本市が取り組んでおります学ぶ力の向上に向けた取組について議論させていただきたいと考えております。学力の向上は一朝一夕には改善できませんが、今年度の学力学習状況調査の結果は、少し肩の荷が下りたということで、市長に早くに報告をしたものですから、あまり言わない方が良かったのではと気持ちもあるのですが、今、我々が取り組んでいる部分もお聞きいただいて、今後の方向性をしっかり定めていきたいと思っております。忌憚のない御意見を頂戴し、より充実した形で取組を進めたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

教育部長

ありがとうございました。本日の出席者はお手元の座席表のとおりでございます。また、南川副市長にも御出席をいただいております。それでは、本日の資料について、教育総務課から確認をさせていただきます。

管理監（教育  
総務担当）

（資料確認）

教育部長

それでは、議事に入らせていただきます。進行につきましては、会議要綱第4条の規定により市長となりますが、あらかじめ指名を受けていますので、私が務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

本日の総合教育会議では、「東近江市立小中学生の学力」と「学力向上に向けた取組」を議題にしております。議事がスムーズに運びますよう皆様の御協力をよろしく願います。

では、次第に従い進めさせていただきます。

はじめに、「東近江市立小中学生の学力」につきまして、学校教育課 安本剛指導主事が説明します。

学校教育課指  
導主事

（東近江市立小中学生の学力について説明）

教育部長

ありがとうございます。それでは今の説明につきまして、質疑応答の時間を10分程度設けたいと思いますので、御質問がありましたらどうぞ。

市長

信じられないのが、小学校6年生の算数で果汁の割合が、飲み物の量が2分の1になると果汁の割合も2分の1になりますということで、7割近い子どもが本当にそう信じている。

市長	それはどこに原因があるのか。これはゆゆしき理解かなと、無理解というか、なぜ1番が圧倒的に多いのだろう。果汁の割合も2分の1と理解している原因はどこにあると思いますか。
学校教育課指導主事	授業の中では、量が2分の1になったときの割合を計算で求めましょうという形の問題として出てくると計算して、変わらないということが分かるのですが、ただこのような形で実際の生活の中では、子どもたちは量が半分になっても飲んだときの味の濃さ（濃度）は変わらないというのは分かっているのですが、授業で計算して求めた濃度と割合が繋がっていないということが主な原因と考えられます。
市長	基本、算数と理科の問題ですよね。そういう普段的思考ができないと解釈してよいのか。もっと言えば常識を当てはめられないというか、数計算の中に入るとそこに問題があるのか。ちょっと分からないですね。普通はリンゴジュースを半分飲んだら濃度が半分になるなんて信じているのが7割いるということの方が恐ろしいような。それも6年生。青地委員、どうですか。
青地委員	私は分かるような気がするのです。というのは、子どもの感覚として、ジュースを2人で分けますということは、自分の体の中に入ってくるのは半分だという意識があるんですよね。感覚的に。だから果汁の割合ということが、頭から抜けていて、体に取り入れるのが半分になってしまうという感覚ではないかなという気がします。
市長	どこに問題があるのでしょうか。
青地委員	子どもは素直に自分の体に入る分を考えているのだと思います。
市長	これはゆゆしき問題だなと思います。
山本委員	全国の正答率も低いですね。
教育部長	これは全国でも、21.4パーセントで、全国より東近江市は正答率が高いです。全国的に同じ傾向にあります。
副市長	問題を見た時に、割合という言葉が問題ではないかと思ったんです。だから果汁が20パーセントあるというのをもう一度言って、その量はどうなりますか、という質問にすればよいのではないかと。青地委員が言われたように、割合という言葉が学校では習っているが、自分が飲む割合が半分になるという、それは説明不足というか問題の出し方の間違い。そう思いながら最初、この質問を読んでいた。
管理監（学校教育担当）	1問目の概数の問題もこの問題もひっかけ問題で、要は意味が分かっているか、割合又は概数の意味が分かっているかで、算数的、数学的に素直に答えればそうなんです、実際の現場ではひとつの問題でもロットが増えれば、ひとつのものは安くなっていくという体験だ

管理監（学校教育担当）	とか、そういう実際の場面で使うような算数ですよということです。
市長	ジュースですよ。これ10分の1飲んだら10パーセントになってくるのか。
管理監（学校教育担当）	ならないですよ。結局、濃度の意味が分かってない。
市長	濃度か。濃度と割合という言葉に引っかかっているんですね。
管理監（学校教育担当）	生活に弱いというか、そういう言葉に引っかかっているのか。
市長	これはちょっとおかしい。問題の出し方が疑問ですね。
教育部長	<p>他に質問ございませんか。</p> <p>次の説明に入らせていただきます。</p> <p>また、のちに教育委員さんから伺います。</p> <p>それでは、「学力向上に向けた取組について」教育研究所の斎藤陽指導主事と学校教育課の安本剛指導主事が説明します。</p>
<b>教育研究所指導主事</b> <b>学校教育課指導主事</b>	(学力向上に向けた取組の一環について説明)
教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それではここから意見交換の時間とさせていただきます。</p> <p>まずは御感想や御意見、御質問でも結構ですので、お1人ずつお聞かせいただければと思います。まずは山本委員からお願いします。</p>
山本委員	<p>難しいというか、理論というのがいっぱい実践とどう結びついているのかという、そのあたりが実感として、おそらく一生懸命やっけてくださるので、現場もそれを吸収しようとして一生懸命やっけてくださっているのにつながっていると思うのですが、普段意味を知らない内容でその辺漏れているというか、教育研究所、あるいは学校教育課と現場との間で齟齬がないと良いなということを率直に思いました。</p> <p>もう一つは、学力調査の結果ですけれど、最初の資料の13ページ目、結局最終的に自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い。あるいは、こちらの分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている児童生徒の方が、平均回答率が高いというのは、これはおそらく私が小学校の頃から同じだろうと思います。これが大きな調査から得た内容というにはちょっと違和感を覚えます。何も</p>

山本委員	知らない中で失礼なことかも知れませんが、今聞いた説明の私の率直な感想でございます。
教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の御意見の中で、理論と実践の部分に関して現場との齟齬がないかとの御意見がありました。宮居所長どうでしょう。</p>
教育研究所長	<p>今おっしゃったことが、昨年度末、見直しを始めた元になるものです。市教育委員会や教育研究所、県教育委員会等いろんな所から、こうする方が好ましい、こうすれば学力向上の力になりますよといろいろと下りてくるのですが、それがバラバラに下りてくる感じがあって、現場の先生方がそれは分かるけど、では実際に教室でどう指導すれば良いのというのが正直分かりにくいところがあるのではないかと。それならば、本市としては学校教育課も教育研究所も同じ言葉を繰り返し伝えることで先生方に子どもの姿を共有してもらおう。そのためにこういう取組を変えますよ、こういう提案をしますよということを信じて、それで実践していただけるような手立てをしたい、そのためには校長先生、教頭先生はもちろんですが、教務主任の先生という主導部隊のトップの方に力をつけていただいて、あるいは学校教育課の指導主事が訪問してそこで想いを伝えるということで、何とか授業実践できないかなという願いで取り組んでいるという状況です。</p>
管理監（学校教育担当）	<p>学校教育課も加えまして、今おっしゃったことがそのまま本市の課題で、現場の授業実践等の教師の指導力を上げないと学力向上はできないのです。今までは県から下りてきたことを管理職の校長会、教頭会で伝えて、そこから伝えていただくという方策だったのですが、教務主任であるとか研究主任のところへ直接、市がアプローチをして、そこから学校へ拡げさせていただくということで、そのためには指導主事の質も上げないといけません。</p> <p>優秀な指導主事ばかりですが、実際のところは事務処理に追われて、学校現場に足が運べないということで、昨年、市長、副市長にお願いして、指導主事を増員していただきました。それによって、東近江市の教育委員会から学校へ足を運んで指導をしていくというシステムが今年できましたので、そういうことも含めて今言われている課題の解決のために、取り組んだことが今年度の結果ということです。</p>
教育部長	<p>現場の方に浸透させる作業をしているということでございます。</p> <p>では、篠原委員お願いします。</p>
篠原委員	<p>ありがとうございます。感想として本当に頑張っているなということ、昨年に比べて感じました。コロナがあって、動きがとれるようになってきたこの今の時期に取り組まれていることがとても実になっているのかなと思います。やはり実際に先生たち同士が集まって何かを話し合ったり、もちろん講演会とかもそうですが、そういうことって本当に大事ななというのがあっても、これまで何年かできなかったというのもあったでしょうし、そういう意味では今年度の取組というのは素晴らしいなと思いました。学力も少しずつついていっているというのも見させていただいたし、ベテランの先生が少し減って、中堅より少し下の先生が今すごく沢山おられると思うので、その先生たちにどれくらいの伸び幅、伸びし</p>

篠原委員	<p>ろがあるかというのは無限だと感じています。これから教育研究所の取組が本当に充実したものであれば、もっと東近江市の学力は伸びるのだらうなと思いました。</p> <p>ひとつだけ質問なのですが、最後のページ14ページのところで、一校だけ成績が下がっているのは何か理由があるのでしょうか。</p>
学校教育課指導主事	<p>お答えします。5年生で少人数指導を行った学校と4年生と6年生を中心に行った学校の差で、今回受けた児童は少人数指導を行っていなかったということで、やはり行った学校では成績が上だったということです。</p>
篠原委員	<p>それを先に言ってください。本当に実践がここに現れたということで良いですね。</p>
学校教育課指導主事	<p>はい、ありがとうございます。</p>
教育部長	<p>すみません。説明が抜けておりました。</p> <p>青地委員、何かございますか。</p>
青地委員	<p>今も質問に出たのですけれども、5年生で実施って言われたんですが、この調査って4月にあるんですよね。その辺はどうですか。</p>
学校教育課指導主事	<p>4月に実施しますので、前年度に5年生で少人数指導を行った児童が受けているということです。</p>
青地委員	<p>分かりました。</p> <p>授業改善というのは、すごく大事なことだと思います。私たちが現職でいたころと違うのですよね。その点の感覚がね。本当に私たちは座って授業を聴くっていうのを勉強してきましたので本当に180度違います。なぜだろうとか自分たちが考えていくという授業はどのようにしているのかということは非常に興味があるし、ぜひ授業を見せてもらいたいなと思っています。</p> <p>ただ、研究主任会とか教務主任会とか教頭会とか校長会その他いろいろあるのですが、この主任会って昔からありましたよね。その中で、それぞれ今までも研修してきたと思うんですよ。教務主任は教務主任で集まって研究課題を持ってお互いに交流をしてきた気がするのです。これは、単なる感想です。</p> <p>ひとつ私が質問も兼ねてお願いしたいのは、いわゆる能登川東小学校で実施しているタブレットから子どもたちの脳波や体動を感じ取って、どういう風に受け止めているかっていうのを分析しているのだと思うのですが、これ授業の改善としては良いのかもしれませんが、具体的には授業をやりながら先生は感じることはできるのですか。誰がどのあたりを分かっているかなど見ながら授業ができるかなということと、もうひとつはこれがいじめや不登校の早期発見、解決になるというこのあたりについてどう活用されますか。</p>
教育部長	<p>補足説明をお願いします。</p>

学校教育課学  
校指導係長

能登川東小学校は、全国で1校の指定を受けていまして、11月末から実証事業に取り組まさせていただきます。子どもたちの様子をタブレットのカメラで撮った状態になっています。先生が持つ教師用のタブレットに子どもたちの座席表のようなものが明示されており、この子はワクワクしている、この子はそわそわしているという様子がパッとわかるような画面を教師が見ながら授業をしています。もうひとつ教室全体が映るカメラを用意していますので、例えば、今、先生が何かを提示した時に子どもたちはどのような様子であったかも分かるようになっています。今活用に向けて、いろいろと認証を重ねているところではあります。例えば、昨日までワクワクした状態で授業を受けていた子が、今日は退屈モードになったり、そわそわモードになったりというところが、長い時間撮ることで子どもの変化に気づき、この休み時間に何かあったのかなとか、今日の朝、家で何かあったのかなというところから、いじめや不登校の未然防止につながっていくのではないかとというところでチェックをしながら進めているところです。

青地委員

これは研究事業に使った方がいいと思うのですよ。研究事業であれば、どういう発問で子どもがどうしたかを分析できますし、そういう活用をした方がいいのではないかと思います。

先生は一人一人の顔色を見ながら、表情を見ながら授業を行っていきます。それは機械ではなく、自身の感性で行いますので、分析で作るという部分については、研究事業で取り入れていただき、先生のどういう行動で子どもがどうなったのか、どういう行動、対応をしていけばよかったのかを教師が学んでいくといった活用方法を取り入れていければ良いと思います。

教育研究所長

先ほどの主任会の話ですが、そのところが、ここ数年大きな課題だということで取り組んでいます。主任会の持ち方や研究の仕方にいろんな要因があり、研究の中心人物が輪番制であるため、発展させることなく昨年どおりやっていたり、広域のため集まりにくい等の理由で主任会自体がかなり下火になってきていました。どうしても教務主任の力を借りないと学校は動かないので、ならば管理職の先生にも学校の入り口でとまっているのを教室の中にまで持っていこうとすると、やっぱり教務主任の先生方がいかに各担当の先生方に下ろすかが課題になってくるので、その下ろし方をどうすればよいのか、今、市ではこういったことが課題となっているということを引っ張って行っているという形になっています。そのことで、教務主任が隣の学校の先生の取組をすればいけるのか等分かってもらえ、それが人材育成につながっていくという考え方で、強引ですが、主任会や研究主任会を引っ張って行っているという形です。ただ、最終的にそれを各校でしていただくことが狙いではありません。

青地委員

人材育成という観点では、とても大切なことだと思いますので、拡げてつなげていただきたいと思います。

一つお願いですが、夏季研修は最低1講座となっていますが、以前はいろいろ受講できたのにとおりました。最低ということですので、いくつでもいいですね。

教育研究所長	<p>そうです、最低1講座です。他市町は希望者のみの受講としています。</p> <p>ただ、2講座、3講座受けておられる方もおられます。市内の教職員は約700人おられますが、今年度のべ約1,000人受講されています。</p>
青地委員	<p>近隣からも参加されるということですので、また逆に近隣の講座を受けられるように広めてもらえるといいですね。ありがとうございます。</p>
管理監(学校教育担当)	<p>以前から、研究審議会等を行っていたのではないかとということで、私もしていました。市内で常任審議会、研究審議会等行っていたことは、それぞれの学校の実践を紹介し、そこで学び合うというもので、市の指導主事や市教育委員会から学ぶものは何もありませんでした。</p> <p>今回は、市の目指すものを「なぜだろう、わかった、またやりたい」というような授業に改善していこうということで、市が全体の方向を示すことによって、それを元にそれぞれの学校で工夫した改善ができるようになり、しかも校内で研究会をしても市の指導主事か来て助言することは今までありませんでした。指導主事が指導主事としての仕事をして、現場に出向き、客観的に見た指導をしてもらおうということで、今と昔の違うところです。</p> <p>そのためには、指導主事はしっかりした勉強をしなければいけませんので、それは我々の課題だと思っています。</p> <p>研修については、本当に良い研修ができています。これからも広域に広げていきたいと思っています。</p>
青地委員	<p>今、お聞きしている限りでも、市としての方向性を持って取り組まれてきたことが、今日の発表からも伺えました。その方向性を持って取り組んできた成果が少しずつ出てきているように感じます。今後に期待したいと思います。</p>
教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>先ほどの能登川東小学校の実証実験につきましては、DXの一環として今回文部科学省から指定校として取り組まれているものです。</p> <p>それでは、沖田委員お願いします。</p>
沖田委員	<p>夏の研修会に出て、頑張っておられるなと感じました。</p> <p>今日の話聞き、文部科学省が推奨する、平均点を上げるという考え方ですが、ベースは国語力だと思います。DXも英語も先ほどの算数の問題も理科の問題も国語力に関係しています。平均的に上げるより、何か一つ東近江市で充実させるならば、国語力を上げるということではないかと思います。社会や経済または、英語など基本になるところで、それを強化するということがあってもいいのではないかと思います。平均的に上げていくというより、基礎となる教科、特に大学でも国語力が足りないと感じますので、そうでなくでも、何か一つ東近江市が全国でもずば抜けているようなものがあってもいいのではないかと思います。</p>
教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、教育長何かありますでしょうか。</p>

教育長

私からは、個に応じた学習指導を取り入れたいということで、実施してもらっています。これは、小学校の算数で行っているのですが、効果についての資料をお配りします。

御園小学校は、外国籍の子どもが多い学校ですが、習熟度に応じて少人数で編成し、算数の積み上げをきちんとできるようにしてもらいたいということで、取り組んでもらっています。資料を見てもらうと、積み重なって随分成績が上がりました。上がった部分は何かという、基本的には少人数で力をつけてもらいたいと思ったのは、一番低いD層の子どもたちです。D層からC層やB層へ上がっている子どもたちもいます。それと同時に少人数で、学力のあるクラスの子どもたちの中でも力がついてきているということで、一番上の層が増えつつあるように思います。沖田委員が言われたように、国語がいいのか、算数がいいのかといったところはもう少し考えたいと思いますが、現在は、教科担任制が算数を対象として入っていますので、そういったものを活用しながら、こういうことも行っていくというのが力をつけることにつながるのではないかと思います。算数は中学校で数学になった途端に分からなくなり、嫌いになって、学校へ行きたくないというところにもつながっていきますので、できればこのような形が明確になったので、分けることによって上の伸びる子も伸ばしているのではなかと思いました。

無回答の子どもたちをなくすために考えた手法ではあるのですが、良い結果が出て、これを参考に考えていきたいと思っています。

教育部長

副市長から何か御感想等ありますでしょうか。

副市長

教育長から市長や私に報告をいただくときに、市長は、「福井や秋田はきつと特訓をしている。事前に必ずいろいろなことをしているはずだ。東近江市はそんなことはしなくてもいい、自然体でいい」と言われますが、私から言えば、どんな問題がでるかなど対策を立て、準備をする必要があるのではないかと思います。何もなしに臨むのでは、学力向上という意味合いとは違うのではないかと思います、その辺の取組はどのようにされていますか。

管理監（学校教育担当）

沖田委員の意見と同じで国語力はとても大事です。今年度、指導主事を増員したのは、国語教科の先生に来ていただき、国語力の強化に取り組んでいきます。ただ、授業改善をどの教科にスポットを当てるかというのは、それは学校の特色を出していいと思います。授業改善はどの教科でも共通です。体育でも音楽でも国語でも共通ですので、そこまで市教育委員会が指示を出すことは違うと思います。それは学校の特色を出していただき、授業改善の方向として、市で統一していきましようということです。

東近江市教育委員会は学力向上の平均点を上げるために行っているものではありません。結果は上がりましたが、やはり社会に出たときにどうかということです。必ずしもテストの成績が良いものが十分に仕事をできるわけではなく、自分の与えられた仕事の中で、この仕事は何のためにしているのかを理解することや、もっと良いやり方はないか、もっとしたいなどの考えが、社会を動かす原動力になっています。そういう大人を育てるために、学びの方向もそういったスタイル、つまり、人に与えられたものをするだけではない仕事の仕方、教育の仕方をしていこうということです。

結果として、少し上がっていますが、学年の特徴もあるので分かりません。ただ、授業

管理監（学校教育担当）	<p>改善の方向として、秋田は「なぜを問う秋田」という教育があり、「なぜ」を問うことに重点を置いて、学力テストが行われる前から長い年月をかけて取り組んでおられます。それが結果として出ています。</p> <p>副市長の質問につきまして、特に特訓を行っているわけではありませんが、問題文と回答用紙が違うこと、またタブレットに慣れていない子どもたちはいると思うので、学力テストは問題文と回答用紙が違うということに対する練習を行っている学校はあります。</p> <p>また、東近江市の特徴ですが、何かたちまちの対策として特訓をしているとかあるのかは分かりません。</p>
教育研究所長	<p>私が言っていたのは、先生方には「甲子園練習の30分間練習は必要です」と。地方大会を勝ち上がってきた選手が甲子園に行くときに、甲子園のベンチの椅子はこうなっている、トイレはこことか、入り口はこうだとか、ファースト前の雰囲気はこうだとか、キャッチャーがフェンスまで追うときはこれくらいの距離があるとか、30分間でみんな同じようになるために感覚をつかむわけです。そのことによって持っている力が出せると。けれどそれが全く知らない状況で試合をやるとなれば、そちらが影響する。だから甲子園練習と同じで、日常の形式とはこういうところが違うとか、そういうところは子どもたちに当然ながら知らされるべきだと言っています。管理監が言ったように、一枚のペーパーに○を書いたり答えをかいたりしますが、そうじゃないというのは教えておかないと駄目だと思っています。そうでないと、子どもが今までつけていた学力を同じように計ろうとしたときにできない。教師としてはやるべきだということで、言葉としては甲子園練習ではないかということで、イメージは持つように、最低1回とか2回くらいの練習をするというのは構わないのかなと思います。これは私見ですが。</p>
副市長	<p>それくらいはしていかないと子どもがかわいそうだなと思います。そういうことをきちっとした中で自分はどうすべきかを考えさせないといけないのではないかと思いますので、「さあ、やります。」と言われただけではちょっとなと思っていたので、それを確認させていただきました。ありがとうございます。</p>
教育部長	<p>ありがとうございます。 市長から感想をお願いします。</p>
市長	<p>過去問題は、絶対に山形は徹底してやっているのではないのですか。 不思議なんですね。日本海側の山形、秋田、石川、富山はトップでしょ。 やっているわけで。やらないと損です。そういうのは。文句を言われぬ程度に。 今までやっていないのでしょ、そういうのは。絶対やろうよ、今年は。</p>
管理監（学校教育担当）	<p>教育長から校長会で指示は出ています。</p>
市長	<p>学力テストはいつまでするのですか。ずっと続くのですか。個人的にはやめないといけないと思っています。学力調査でも何でもなし。</p>

市長

それと、学力につながる問題ですが、根本的に滋賀県の学力は低い。これは、県がもう少し真剣に考えないといけないと思います。一つは全県一区にした高校の学区制の問題、もっと現場から声をあげてほしい。特に中学校、優秀な子が県外など他の学校に行ってしまう、東近江市でも大問題です。滋賀県のレベルが落ちているのはそういうところにあります。ところが、保護者に聞けば全県一区に賛成されています。私たちは自分の市町を守りたいので、優秀な人材を外に出したくないので、この問題をもう少し論議できないのかと思います。学力テストができなくても、優秀な子は伸びます。高校の学力をもっと伸ばすために、学区制を見直さないと今後ひどい状態になると思います。

特に中学校の進路指導の先生は、深刻な問題として受け止めて、県がおかしいのであれば、はっきり言わないといけないと思います。県教育長にも言いましたが、学力テストよりも深刻な問題になっているので、やってみることは良いと思いますが、駄目だったら戻すなどしながらクリアしていかないと、ますますレベルが低くなってしまわないかと思っています。

中学生議会で「近江鉄道の料金が高く、行きたい高校へ行けないので、定期の補助をすべきだ」と提案があり、中学生自らが言うのです。そういう思いのある子の学力をしっかりと伸ばして、レベルの高い教育、研究ができるようもっと伸ばしていかなければいけないと思います。そういった教育を私は望みます。

地元にいる優秀な子がどんどん県外へ行ってしまう状況を見たときに、私たちはそれを阻止する責任があるのではないかと思います。

教育部長

ありがとうございます。皆さんからいろいろな意見をいただきましたが、皆さんの御意見に対して何か御意見等がありましたらお願いします。

沖田委員

先ほど言い忘れてましたが、学力を上げるために本当に先生方は一生懸命取り組んでおられますが、学校で学習し、家庭でも学習する習慣というような、学校と家庭との連携が重要になってくると思います。いくら学校で一生懸命学習をしても、家に帰って学習する習慣が身につかないといけないと思いますので、それをどう考えるかも大きな課題だと思います。

山本委員

家庭のことはこの場で発言したいと思っていました。

学校と家庭は両輪なので考えておられると思いますが、結果分析をして対策を立てるのであれば、片方が抜けているのはおかしいと思います。公表する、しないというものもあるのだと思います。

平均点を見ていればあまり変わらないのですが、学校別で見れば学校差が大きいことに驚きました。この学校差をどう対応していくのかは、複数入るなど、上げる学校に集中的にされていると思いますが、それも現状を分析してどうしているかということをもっと少し表に出しても良いのではないのでしょうか。もちろん、公表することとしないことはあると思いますが、全く出てこないというのは逆に違和感があります。

家庭のことは学校格差のことだけは申し上げたいと思います。

教育部長

教育長、今のことに對して、地域格差等とか御意見はありますか。

## 教育長

学校に明らかにせず、そのような中でやって、こういう課題があるということも大事なのではないかと思います。

それと同時に、今の時代、家庭に課題があると思っていますが、それが解決につながる術が見つからないという状況です。学校教育は教員の授業改善だとかいろいろな手法で改善に向かわず手立てがあるように思うのですが、家庭を改善する術というのは正直なところ分らないです。その部分を続けることは大切だと思いますが、本当に改善策を見つけていかないと、現実的には課題だけを放り出して「さあ、どうしよう」で終わってしまい、非常に難しい問題だと思います。

今の日本は課題を先送りにすることに慣れすぎてしまい、本音のところで潰すことをしなくなっているのではないかと常に感じています。少子化については戻れない課題だと思いますし、戻らないと国防以上に大変なことになるのではないかと思います。

課題解決に向けた術が見つからないというのが正直な気持ちです。大事な部分だと思っています。

## 篠原委員

今の話の流れで行きますと、家庭の力については難しいと思います。私は家で塾をしていますが、コロナが始まった頃、まだまだ敏感な時期に、学校である学年にコロナ感染者が出て、塾に来ている子どもに聞いたところ、「コロナにかかった人がいるかどうかは自分からは言えません。」と。小学校6年生の子ですが、学校でコロナの取り扱いについて、先生から外部に広めないようにと言われたからだそうで、先生の言葉ってすごいなと実感しました。

家庭では難しいところがあるので、先生の言葉をもっと大切にしていいただければと思いました。

もう一点は、国語力のアップについては、読書感想文を夏休みに宿題に出す学校、出さない学校、学年によっても違いますが、私は、毎年子どもたちに読書感想文の講習をしているので毎年レベルがアップします。読書感想文を絶対しないといけない夏休みの宿題にしてもらえないかと思っています。

それ以外にも文章を書かせる力はすぐにつかないので、毎日書く習慣も大切だと思うのです。「めじとまふ」の振り返りのところで、子どもたちがそれぞれ書くのですが、それについての指導をされているのか分かりませんが、中学3年生の生徒が「振り返りを書かないといけない」と持ってきて、どう書いたら良い点数がもらえるのかというのです。そう考えて書いているのかと思いました。

子どもたちが、全く意味の分からない数学の授業を受けた後に、振り返りを書かされる気持ちはどうなのだろうと思いました。振り返りの書き方、言葉遣いや文章の構成などに力を入れてもらえると、子どもの伝えたいことが全然伝わっていないとか、感想がうまく言葉になっていないところなどが少しずつ良くなっていくのではないかと考えていました。

## 学校教育課指導主事

振り返りには重点的に取り組んでいます。先ほどのスライドにも、子どもたちが書いたものを示しています。一番上は1年生で2学期から自分の言葉で書いていくことをしています。これについては、教師が必ず見ていきます。一番下は中学校の先生のもので、必ず目を通して、この考え方は良いと伝えられるように採点等、手を入れています。中には、この考え方が良いとメッセージで伝える必要があると思っています。

<b>学校教育課指導主事</b>	<p>振り返りについても、公表をしている、つまりいろいろな視点を設けて振り返りをするということになるのですが、視点の違いで振り返りの書き方が違うということや表現についても子どもたちの交流の中で振り返りの質を高めながら書く必要があると考えています。</p>
<b>市長</b>	<p>「めじとまふ」ですが、「め」はめあて、「じ」は自分で考える、「と」は何から取っていますか。</p>
<b>学校教育課指導主事</b>	<p>平成27年度に作成した際は、「と」は友達との交流だったのですが、それを友達との交流だけにしていると、本当に自分の言いたいことだけを言っている、交流だけをしているというところで、その質をより上げるように、「学びを深める交流」と変えたため「と」が頭文字ではなくなってしまいました。来年度は「友達と一緒に学を深める交流」とさせていただきたいと思います。</p>
<b>教育部長</b>	<p>皆さん、熱心な御協議ありがとうございました。  まだまだ御意見をお聞きしたいのですが、時間がまいりましたので、議論を集結して、まとめに入りたいと思います。市長からまとめていただけますでしょうか。</p>
<b>市長</b>	<p>ありがとうございました。今日は、実情からこうあるべきだという話までしていただきました。最後に山本委員が言ってくれましたが、本当に家庭学習が大切です。やはり家庭に対して呼びかけるなど、言い続けたいといけなないと思いました。家庭学習が鍵を握っていると思います。諦めたら何も結果が出ませんので、粘り強くやっていきましょう。</p> <p>東近江市は、素材は良いものを持っています。それと先生方をお願いしたいのは、私はラチーノ学園の卒業式に毎年行っていますが、それを見ていただきたい。子どもと先生のふれあいが素晴らしい。一人一人の生徒を大切にしています。これは教育の原点だと思います。</p> <p>「平均」、「みんなで」が一見良いように見えますが、一人一人の人間なんです。一人一人を一对一で見ることができるかなのです。だから、少人数学級を実現しないといけなないのですが、私たちが45人学級であった時代でも、もっと先生を尊敬し、先生との人間的な交流もあったと思います。勉強が苦手な子どもも先生を慕っていたし、そういった人と人とのふれあい、つまり、子弟と恩師の関係です。私たちの時代、先生は聖職だと思っていましたから、先生は絶対的なものでした。</p> <p>今は、子どもの目線でと言います。子どもの目線で見るとは大切なことですが、決めるのは大人が決めなければいけません。しかし、子どもに決めさせてしまっています。先生がしっかりしていただきたいと思えますし、家庭がもっとしっかりしていかないといいなないと思えます。どこまで効果があるか分かりませんが、私も呼びかけていきますし、それぞれの立場で呼びかけていきましょう、というのが私の思いです。</p> <p>良い総合教育会議でした。ありがとうございました。</p>
<b>教育部長</b>	<p>教育長からもひとことまとめていただけますか。</p>
<b>教育長</b>	<p>今年度から学校に家庭教育支援員を配置しました。いろいろな家庭を見ていると、全体的な議論はできると思いますが、課題がある家庭を改善したいという視点から見ると、そこに</p>

教育長

スポットを当ててということとはなかなか難しいなというのが率直な意見です。

本日は、いろいろな視点で御意見をいただいたことを参考にしながら、来年度と言わず、今から取り組んでいきたいと思えます。

教育部長

ありがとうございました。本日の議題は以上で終了です。

皆様からいただいた貴重な御意見は、今後の施策や取組につなげていきたいと思っています。それでは以上を持ちまして、令和4年度第2回教育総合会議を閉会いたします。

ありがとうございました。

会議終了

午後0時12分